

物価高騰
応援

物価高騰の影響を受けている **高齢者・子育て世帯** を応援するため、久喜市商工会が発行する商品券を配付します。

高齢者応援商品券

配付内容

令和7年9月1日時点で久喜市に住民登録があり、昭和24年4月1日以前に生まれた方へ、対象者1人あたり2,000円分の商品券を配付します。



対象となる高齢者	配付時期	配付方法
敬老事業の記念品・祝金の対象となる方（令和7年度に77歳・88歳・99歳・100歳以上になる方）	9月中旬頃	民生委員が対象者宅を訪問し、敬老事業の記念品または祝金と併せて手渡し
上記以外の対象者	9月下旬頃	同一世帯の方をまとめ、ゆうパックにて送付

[問](#) 社会福祉課社会福祉係（内線3223・3224）

子育て世帯の元気応援商品券

配付内容

令和7年9月1日時点で久喜市に住民登録があり、平成19年4月2日以降に生まれた子どもを養育している保護者の方へ、子ども1人あたり2,000円分の商品券を配付します。



対象となる子ども	配付時期	配付方法
市内の小・中学校に通う子ども	9月中旬頃	学校を通じて配付
未就学の子ども 高校生年代の子ども 市内の小・中学校以外の学校に通う子ども	9月下旬頃	同一世帯の子どもをまとめ、世帯主宛てにゆうパックにて送付

[問](#) 子育て支援課医療手当係（内線3286・3287）

久喜市役所 窓口開庁時間

（月曜日～金曜日（祝日を除く）、日曜開庁日※）

8時45分～16時30分

※日曜開庁日は、12時～13時を除く。
開庁窓口・開庁日は市ホームページをご覧ください。



電話の
受付時間

窓口開庁時間と同じく
8時45分～16時30分

※電話については、職員の勤務時間内（8時30分～17時15分）は窓口開庁時間以外も担当課におつなぎしますが、窓口開庁時間内でのご連絡にご協力をお願いします。

対象施設

[問](#) 企画政策課企画政策係（内線2282）

①全ての窓口が対象の施設

市役所本庁舎、第二庁舎、各行政センター、中央保健センター、栗橋保健センター

②証明書の交付等の取扱時間のみが対象の施設

ふれあいセンター久喜、森下コミュニティセンター、桜田コミュニティセンター

※施設の利用に係る受付や貸出時間は市ホームページをご覧ください。

合併15周年記念

～市民とともに振り返る久喜市～

[問](#) シティセールス課広報広聴係（内線2251）

9月 久喜市のイトコ

あなたは久喜市のどんなところが好きですか？今月は、皆さんから募集した「久喜市のイトコ」を投稿写真・コメントとともに紹介します。



大河流れる歴史ロマンの街 久喜市。久喜市には自然豊かな利根川があり、歴史深い神社・仏閣が市内各所に存在しています。歴史散策をしながら自然を満喫してみても如何でしょうか？きっと！記憶に残る出会いがあることでしょうか……。市民の皆様はもとより、関係人口も増えて活気ある久喜市にしていきたいと思います。

投稿者：高橋康造さん

その他の投稿作品は市ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



久喜といえば、やっぱりみずみずしい梨と甘～いイチゴ！シャリっと食感がたまらない梨は、かじると果汁があふれ、暑さも吹き飛びます。イチゴは、ひと口食べれば濃い甘さと香りがふわっと広がり、思わず笑顔に。旬の季節が来るのが毎年待ち遠しい、そんな久喜の味覚です。

投稿者：れなこさん

連載 久喜歴史だより（第164回）

昭和20年の本多静六博士

八十翁の克己生活

本多静六

『八十翁の克己生活(部分)』（郷土資料館所蔵）

令和7年（2025）は戦後80年になります。久喜市出身の本多静六林学博士には、大戦末期の昭和20年（1945）4月25日に著した「八十翁の克己生活」という小文があり、同年5月15日の『実業之日本』誌に掲載されました。

博士は戦時下の都会の生活を離れて静岡県伊東に疎開し、酒やタバコ、肉や菓子は一切購入しない、食糧自給の生活に入ります。芝刈りをしたり腐葉土を肥料として集めたりしながら、読書と著述の日々を過ごします。そのような中、博士は「人間の生きてあると云ふことは働らいてゐることであり、働らくことは、毫も苦痛でなく、却て面白い道楽であるとし、ついには「晴耕雨読から昼耕夜読の生活に飛躍した」と述べています。しかし配給米では足りなかったことから、野菜をたくさん栽培し食糧不足を克服することができたので、

博士は戦後に人心が動揺することになると予想しています。これは博士の戦争に対する真の想いが込められた一文ではないでしょうか。

そして終戦後の昭和21年（1946）1月には、克己生活を提唱する『克己の食生活』が出版されます。この本は、国立国会図書館デジタルコレクションで全文を閲覧することができます。また、「八十翁の克己生活」は、久喜市立図書館久喜市デジタルアーカイブの本多静六関係資料で全文をご覧いただけます。

戦後80年にあたり、博士の想いと平和の尊さを語り合ってはいかがでしょうか。

[問](#) 郷土資料館 ☎57・1200

乏しさに耐える耐乏生活から乏しさを克服する克己生活に改めたとあります。

もなお、この小文の結びには、「目下人生指導原理篇の執筆中で、希くは大戦後動揺し易き人心の安住に資したいと折角努力中である」という興味深い一文があります。

検閲があった言論統制下では、戦争勝利が前提でした。このため、大戦後が勝利ならば歓喜することはあっても動揺と書くのは不自然です。しかし、博士は戦後に人心が動揺することになると予想しています。これは博士の戦争に対する真の想いが込められた一文ではないでしょうか。